

令和4年産

稲作ごよみ(もち米)

定期的には場巡回を行い生育を把握し適期管理に努めましょう。

月	5		6			7			8			9			10			11		
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	
生育ステージ	育苗準備		育苗期			活着期			有効分け時期			無効分け時期			穂の発育期			登熟期		
水管理																				
主な作業内容	<p>種籾準備 3.0〜3.5kg/10a 育苗期間は20〜25日間程度にする</p> <p>播種 催芽粉で1.3〜1.6合播き</p> <p>土壌改良材施用 堆肥等散布</p> <p>基肥施用・耕起</p> <p>育苗箱防除</p> <p>田植え 植付本数3〜4本/株</p> <p>除草剤散布 水を切らさない</p> <p>かん水 浅水にする ジャンボタニシ発生田は 間断かん水で根に活力を保つ 排水不良な田では 排水良好な田では 排水良好な田では 排水良好な田では</p> <p>中干しは田面が白く乾かないよう 6〜7日程度行う(20本/株)</p> <p>病害虫防除I</p> <p>穂肥①</p> <p>穂肥②</p> <p>病害虫防除II</p> <p>病害虫防除III</p> <p>出穂期頃是最も水を必要とするので水を切らさない</p> <p>◎標準的な落水時期 収穫7〜10日前 あまり早くから落水すると粉の充実が悪くなる。 田の乾き具合を見て落水時期を調整する。</p> <p>◎刈り取り適期の粉水分と熟れ具合 粉水分 22〜29% 黄色粉割合 74% 刈遅れは茶米や胴割れ米が発生しやすくなる。</p>																			

月	5月		6月			7月			8月			9月			10月			
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
病害虫防除(基本)	<p>●種子消毒 スミチオン乳剤10000倍 24時間浸漬 薬液20Lで種籾10kg分</p> <p>●フェルトラゼクサロン箱粒剤50g/箱</p> <p>●スクミノン1〜4kg (ジャンボタニシ)</p> <p>●スクミリンゴカイ (ジャンボタニシ)</p> <p>●ウンカ類・いもち病・カメムシ類</p> <p>●アブロードフロアブル10000倍 ビームエイトスタークルゾル10000倍 ビームアブロードスタークル粉剤5DL4kg</p> <p>●ウンカ類・いもち病・カメムシ類</p> <p>●斑点米カメムシ類 ウンカ類・いもち病 紋枯病・コブノメイガ</p> <p>●ノンプラスバリダジョーカー粉剤DL4kg</p> <p>●MRジョーカーEW20000倍 ノンプラスバリダフロアブル10000倍</p> <p>●エクシード粉剤DL3kg スタークル液剤101000倍 スタークル粉剤DL3kg</p> <p>●カメムシ類 ウンカ類</p>																	

土づくり ○収量品質安定のために下記の土壌改良資材を施用しましょう。(10a当たり)

資材名	施用量(kg/10a)	備考
ミネラルG	140〜200	ケイ酸と鉄分の補給
とれ太郎	60	ケイ酸の補給
けい酸加里	40	ケイ酸・加里の補給
アヅミン	40	腐植酸の補給
土力の素	45	腐植酸・加里の補給

施肥基準 籾数過剰による粒の充実不足を防ぐために多肥(特に基肥)栽培は避けること。

成分(N-P-K)	一発肥料の場合	基肥	穂肥①	穂肥②	追肥一発の場合
		晩生一発 エムコート44	ちくごの めぐみ444	NK2号	
施用量	45	35	20	15	25

※前年大豆作の場合は基肥を2割減肥する。

- ※一発肥料について:①地力により施肥量を加減する。
②葉色が薄く推移するが、肥効が持続するので追肥はしない。
③なるべく田植に近い時期に施用する。

※追肥一発の場合、穂肥①の時期に全量施用する。

令和4年産ヒヨクモチ栽培管理記入欄

★[作付品種名][作付面積][主な作業月日]を記入して下さい。

品種名 作付面積	5月		6月		7月		8月		9月		10月			
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ヒヨクモチ	種子消毒	播種	田植え	雑草防除	穂肥	病害虫防除	出穂日	病害虫防除	病害虫防除			収穫		
a 床土消毒														
作業月日	/ ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日 / ~ 日													

除草剤防除基準 イグサ近隣田では使用しない。

◎初・中期除草剤

剤型	薬剤名	使用時期	10a当たり散布量	使用上の注意点
粒剤	エンペラー 1キロ粒剤	移植直後〜ノビエ3葉期	1kg	移植同時処理が可能である。
	トップガンR 1キロ粒剤	移植直後〜ノビエ3葉期	1kg	
	サラブレッドKAI 1キロ粒剤	移植直後〜ノビエ2.5葉期	1kg	
ジャンボ剤	エンペラー ジャンボ	移植直後〜ノビエ3葉期	10バック	湛水状態(5〜6cm)を保つ。
	トップガンR ジャンボ	移植直後〜ノビエ2.5葉期	10バック	
	サラブレッドKAI ジャンボ	移植直後〜ノビエ2.5葉期	10バック	
フロアブル剤	エンペラー フロアブル	移植直後〜ノビエ3葉期	500mℓ	移植同時処理が可能である。
	トップガンR フロアブル	移植直後〜ノビエ3葉期	500mℓ	
	サラブレッドKAI フロアブル	移植直後〜ノビエ2.5葉期	500mℓ	
豆つぶ剤	エンペラー 豆つぶ250	移植直後〜ノビエ3葉期	250g	

除草剤使用上の注意事項

- 使用基準を厳守し、適正な使用に努め、降雨直前、直後の処理は避ける。
- 散布時に田面を露出させないよう注意する。また、藻やワラズなどの浮遊物がある状態では効果が落ちるので取り除く。
- 散布後は、3〜5cmのたん水状態を保ち、7日間は、水を落とさない。
- 葉害のおそれがあるので、漏水田での使用や散布直後の補植、極端な深植や浅植、軟弱苗の使用はさける。
- 移植同時施用は、葉害が出やすいので、散布後できるだけ早く入水し、オーバーフローが起こらないように止水する。(除草効果、葉害軽減のため)土の戻りが悪いところでは使用しない。

◎中・後期除草剤

雑草の種類	使用する農薬	使用量(10a当たり)	使用時期	収穫前日数
イネ科雑草	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	湛水 移植後7日〜ノビエ4葉期	30日前まで
広葉雑草	バサグラン粒剤	3〜4kg	落水 移植後15日〜55日	60日前まで
イネ科・広葉雑草	レプラスジャンボ	10バック	湛水 移植後14日〜ノビエ4葉期	60日前まで
	ハイカット 1キロ粒剤	1kg	湛水 移植後15日〜ノビエ3.5葉期	60日前まで
	クリンチャーバスマE液剤	1000mℓ(水70〜100ℓ)	落水 移植後15日〜ノビエ5葉期	50日前まで

※初・中期除草剤および中・後期除草剤の使用はそれぞれ1回までとする。

ヒヨクモチの特徴

出穂期	成熟期	稈長	収量	耐倒伏性	いもち耐病性
9月6日	10月26日	69cm	546kg/10a	極強	やや弱い

★農薬は保管庫等に入れるなどして、きちんと管理しましょう!

★生産履歴記帳により安全・安心で品質の良い米を消費者に届けよう!!

- 農家自ら進めよう。米の消費拡大!
- 農薬購入の際は印鑑が必要です。
- 稲ワラ・麦ワラは流出防止や土づくりのため、堆肥と交換するか全量すき込みましょう!